

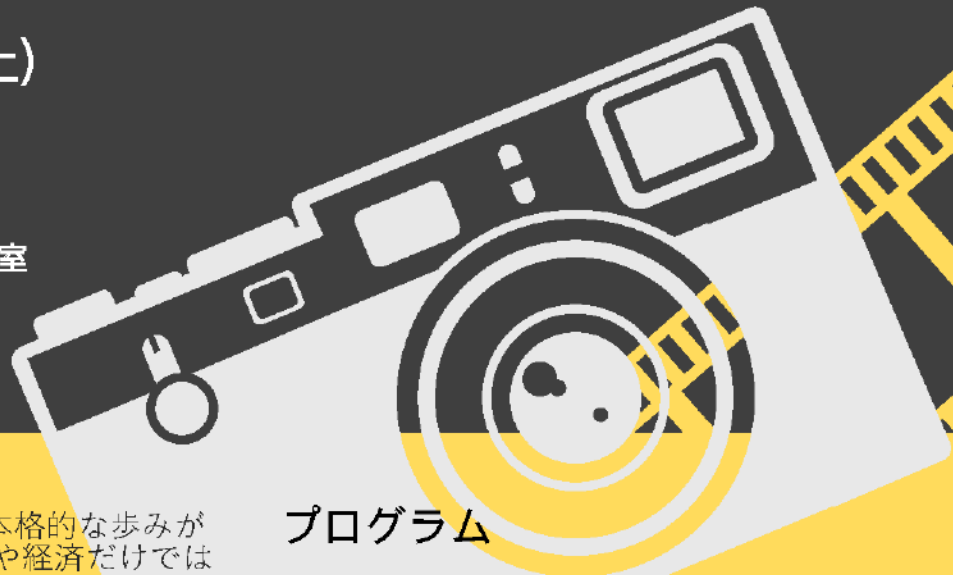
シンポジウム

戦後日本の写真史と文化運動

## 〈リアリズム〉のゆくえ

2019年3月16日 (土)

13:30~17:00

山形大学小白川キャンパス  
人文社会科学部1号館103教室〒990-8560  
山形市小白川町1-4-12

占領が終わり、戦後日本の本格的な歩みがはじまった1950年代は、政治や経済だけではなく、文化運動においても、現在につながる新たな基盤を形作るべく、さまざまな模索が行われた時代だったととらえられよう。

ここで、「文化運動」ということばは、芸術諸ジャンルの単なる総称、という意味ではない。むしろ逆に、1950年代は、労働運動や教育、報道といった現実的な社会的事象、言説に深く関わりながら、文学や美術などの芸術ジャンルが、既成の枠組みを変更し、その再定義を試みた時代だったととらえられよう。その意味で、文化運動と呼ぶにふさわしい広がりやダイナミズムがそこにはもたらされたといえる。しかし一方で、ジャンルごとの独自性とそれぞれに固有の史的展開を前提にしてきたこれまでの文化研究においては、その時代の試行錯誤に含まれた豊かさが往々にして見過ごされてきたことも、また否定し難い。

今回の企画では、それぞれに異なる研究領域において、戦前、戦中からの連続性と変化とを通して1950年代の問題性を魅力的に提起し、ジャンルを超えた学際的な研究の重要性を主張してこられた講師、コメンテーターをお招きし、広義の〈リアリズム〉概念を結びの糸として、1950年代日本の文化運動の多様性と可能性に迫ってみたい。

-主催-

山形大学

人文社会科学部附属

映像文化研究所

## プログラム

## 【講演】(13:30~15:30)

- 白山 眞理 (一般財団法人日本カメラ財団)  
「〈報道写真〉からリアリズムへ」

- 鳥羽 耕史 (早稲田大学)  
「サブ・リアリズムの射程 — 美術、文学、映画における底辺・周縁への視線」

## 【コメントと討議】(15:50~17:00)

コメンテーター：山崎義光 (秋田大学)

佐々木悠介 (東洋大学)

司会：森岡卓司 (山形大学)

※ 事前申込不要

※ どなたでも自由にご来聴いただけます

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文社会科学部1号館

問い合わせ E-Mail : morioka@human.kj.yamagata-u.ac.jp | <http://www-hs.yamagata-u.ac.jp>